

分布：全国

## イヌタデ (タデ科)

犬蓼

別名：アカマンマ、赤のまんま

ペルシカリア ロンギセタ

学名：*Persicaria longiseta*

### 主な生育場所

畑や果樹園、田畑の畦、耕作放棄地、路傍、庭先など、身近な人里環境内で普通に見られる。水辺から日当たりのよい畑地まで生育環境は幅広いが、やや半日陰の湿った場所に群生することが多い。

### 特徴

夏から晩秋にかけて茎の先に紅紫色の小花を3~5cmほどの円柱状に密生させた花穂をつける一年草。高さ20~50cmほどで、よく分枝する。茎は紅紫色を帯びやすく、晩秋になると全草が紅葉する。タデの仲間には葉の付け根に茎を抱くように筒状の「托葉(たくよう)」があるが、イヌタデには托葉の縁に托葉と同長の長い毛が生える。



イヌタデの花穂

名前の由来：タデの仲間には、藍染めに利用する「アイ」や、刺身のツマとした「ヤナギタデ」など、役立つ種類が多い中、あまり利用価値のないタデとして、蔑称の「イヌ」をつけて呼ばれたことから。

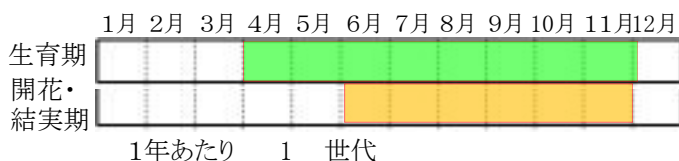
### <農業との関係>

畑や樹園地の雑草となるが、群生しても草高がさほど高くないため、強害草にはなりにくいが、近年、飼料畑で問題化しているとの報告がある。水田内にも発生するが、畦畔に多い。土中の種子は平均気温が7~10°になると発生し、発生の深さは1~3cm前後である。また、春から秋まで発生期間は長い、夏期の発生は少ない。土中の種子寿命は4年半後で10~30%との報告がある。



群生するイヌタデ

### <生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> ほぼ同様の環境下に生育し、イヌタデに比べ、50cm~1m以上と大型となるサナエタデやオオイヌタデは、葉の裏に白毛が目立ちやすく、托葉の縁にはほとんど毛がない。またオオイヌタデの花穂は太く長く、下向きに垂れがちである。

### <一言うちく>

子どものママゴト遊びにしか役に立たないと思われるイヌタデですが、実際には若菜や花穂は天ぷらにして食べることができます。ただし、味は可もなく不可もなくといったところでしょうか。ちなみにイヌタデの花言葉は「あなたのお役に立ちたい」。何といじらしいことでしょう。



オオイヌタデの花穂 (太く、長くて垂れ下がる)

### <人との関わり合い>

野辺に普通に生える身近な草であり、花穂をしごき落としたものを赤飯に見立て、アカマンマとも呼ばれオママゴトの材料とした。また群生すると花穂や紅葉が非常に美しく、秋の風情を感じさせることから、古くから短歌や俳句などにも詠まれてきた。よく揉んだ生葉は、皮膚病・虫さされなどに効くとされる。また、全草を干して煎ずれば、虫下しにも良いとされる。

### <俳句や短歌への登場>

【季語:秋】

犬蓼の花くふ馬や茶の煙 (正岡子規)

犬蓼の花さかりなる里川に夕日ながれてあきつ飛ぶなり (落合直元)

わが屋戸の穂蓼ふるから採み生し実になるまでに君をし待たむ (万葉集・作者未詳)